

女帝とともに「西京」を河内に造営

変わる「道鏡」像

—八尾・由義寺塔跡の発見から4年—



塔基壇から七重塔だったとみられる（左） 現地に建てられた「由義寺跡」の碑＝八尾市東弓削3丁目

栄華を極め天皇の座さえうかがったとされ、長く「悪僧」の印象がつきまとった河内出身で奈良時代末期の僧、道鏡。ゆかりの八尾・由義寺の塔跡が2017年に発見された。女帝・称徳天皇との二頭体制で築こうとした仏教政治の拠点「西京」とも見られる。この発掘で道鏡のイメージはどう変化したのだろうか。

講師 柏原市立歴史資料館館長 安村俊史さん

11月25日(木) 午後2時～3時半

会場: 大阪市立総合生涯学習センター第2研修室
(大阪市北区梅田1丁目・大阪駅前第2ビル5階)

定員: 40人 参加費 1000円 要申し込み

電話: 050-5583-7403 E-mail: kansaiforum@gmail.com [大阪自由大学](#) [検索](#)

主催 大阪自由大学